

平成26年度 第1回健康づくり推進協議会

1	審議会名	健康づくり推進協議会
2	日時	平成26年(2014年)7月9日 午後 1時30分から午後2時30分まで
3	会場	穂高健康支援センター集団指導室
4	出席者	伊藤委員、石田委員、山本委員、中村委員、深澤委員、石川委員、青柳委員、平倉委員、熊井委員、花岡委員、小林委員、望月委員 (欠席 武井委員、鶴見委員)
5	市側出席者	宮下部長、宮下課長、高橋課長補佐、飯田係長、渡邊保健師、上条保健師、小林保健師、竹澤管理栄養士、大池歯科衛生士、曾根原
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年7月15日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- 1 開会
- 2 委員の委嘱
- 3 健康福祉部長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 安曇野市健康づくり推進協議会要綱について
- 6 会長選出
- 7 会長あいさつ
- 8 協議事項

(1) 平成25年度保健事業報告について(事務局より説明)

- ①安曇野市の人口、死因に対する分析、国保医療費の状況等を説明。
- ②母子保健事業における、妊婦に対するケア、乳幼児の発達支援、育児教室・相談、訪問指導などを説明。
- ③成人保健での各種健診の結果で安曇野市における傾向、その他各種施策の成果と課題を説明。
- ④予防接種は、予防接種法に基づき実施し平成25年度4月より3種が追加されていること、精神保健の現状等を説明。

(2) 平成26年度保健事業計画について(事務局より説明)

母子保健事業、成人保健事業、健康づくり事業、感染症予防、地域医療の各分野で今年度の重点課題について説明。

質疑応答

(委員) 特定健診について、地区に連絡を出しているが、健診に行く人が少ない。平成24年度当市の受診率は36.3%とある。大町市は、35.2%で受診率が低いため、市内4つの量販店で普及PRをしたという記事を見た。安曇野市もあまり変わらない受診率であるが、なにか対策をたてているのか。

(事務局) 今年度は、未受診者に直接電話で個別に連絡することを考えている。あづみのFMや市民タイムス等での周知活動も行っている。

- (委員) 回覧板は、あまりPRには効果的ではない。
PRしていくことが難しいということだと思うが、健診が一番の入り口だと思うので、何とか受診率をあげていただきたい。
- (委員) 健診だけではなく、予防接種なども同じであるので何か良い周知方法アイデアがあれば市に提案を是非おねがいしたい。
- (委員) 最近話題となっている脱法ドラッグについて、今の報告の中では出ていなかったが、安曇野市としては、何か考えはあるのか。
- (事務局) 現在、市として主体的な取り組みはしていない。
- (委員) 松本保健福祉事務所で、違法な薬物について警察等と会合をもちながら適切な取り扱い、啓発に取り組んでいる。保健福祉事務局が事務局となって、地域ごとに会合を開き対策を立てている。健康づくり推進課としては、薬物にかかわらず、アルコールなど依存について対策を立てている。学校等での教育現場での取り組みもしている。これから、やっていかなければならない課題であることは、認識している。
- (委員) これから脱法ドラッグは確実に増えていくものと考えられるので、情報を取り入れて、保健福祉事務局でも市でも是非対策を立ててほしい。
- (委員) 安曇野市に転入して一年になるが、「健康づくりを」と言いながらどこで、どのように、何をやればよいのかまったくわからない。健康づくりには、食生活の改善・運動機能増進・医療機関での健診の3つが必要だと思う。この3つをトータルサポートする体制を作らなければ効果が上がらないのではないかと。3つをコーディネートしてくれる人がいてくれたら、非常に助かるかなと思っている。健康保険証を持っていない方たちの救済においても、ぜひお願いしたい。
- (事務局) 転入者の方から、健診等わかりにくいという意見をいただいている。少なくとも、健診こよみについては、わかりやすいもの、受診したいと思うものに作りかえることを検討している。食と運動について、専門職はいるが、周知されていないのが現状なので、内部で検討していきたい。国保でない方も保険のない方も健診を受けていただくことができるが、非常に少ないのが、現実。特に若い世代の健診の在り方を考えていかないといけない。国保でも医療費が高いのは、退職者の方で外の保険から移ってきた方が多い。現在社会保険で国保出なくても市民として今後考えていかなければならない課題である。
- (委員) 受診率を上げる方法として、いくら立派な広報やチラシを作っても、見てくれなければ効果がない。合併前は、地域に多数いた保健指導員がきめ細かく広報活動をしていた。それなりに効果があったのではないかと。現在は、人数が少なく困難だと思われる。チラシ等広報活動ではなく、人と人とのつながりで進めていくシステムが、手間はかかるが確実な方法ではないかと考える。市の体制ということで、なかなか実現できないがそれなりの効果があるのではないかと。検討していただきたい。

(委員) 現在、健康づくり推進委員は区に一人が一般的であるが、多少区によって偏りがある。人と人とのつながりが減ってきていること、個人情報取り扱いなどで、普及活動が難しくなっているのが、現実である。

(委員) 受診率あげることについて、受診したか、しないかだけなら個人情報にはならないので、受診していない方への催促を推進委員の方に依頼をしてお願いをするのは可能ではないか。しかし、労力が必要なことなので困難であるだろう。

(事務局) 今年度は、未受診の方に電話で個別連絡をし、どのくらい効果があるかを見て、段階を踏んで検討していきたい。今後推進委員会とも話しあって進めていきたい。

(3) その他

①「安曇野市食育推進会議員委員の推薦」について（望月委員）

②「安曇野市健康づくり推進協議会専門部会」の設置について
・ 歯科口腔保健部会を設置する。

9 閉会